

## (仮称) 平和資料館基本計画 (案) 概要

### 第1章 基本方針 (P2～P6)

#### 1 コンセプト

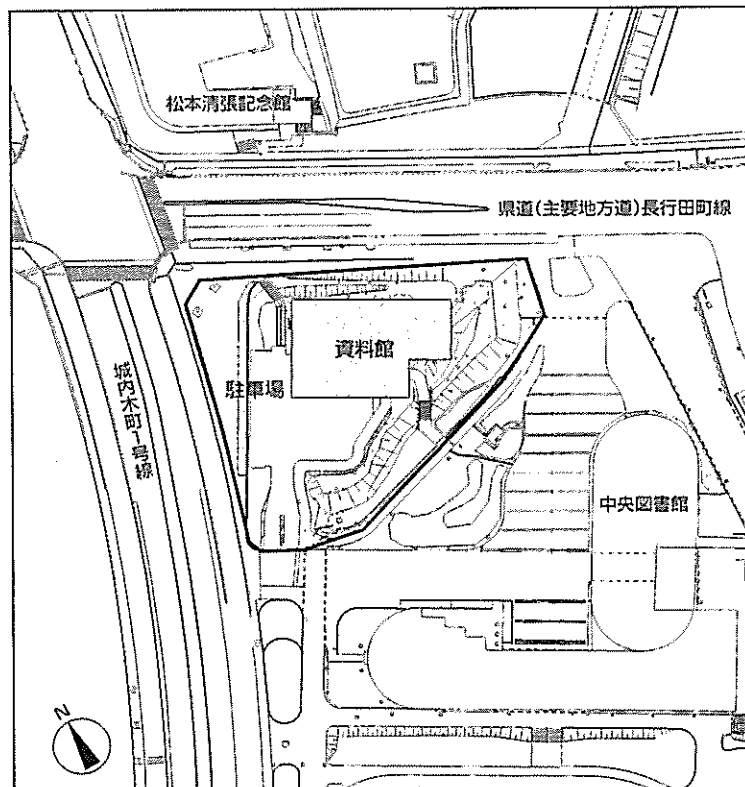
- ① 市民の戦争体験や当時の暮らしを物語る資料などを保存・継承していく施設
- ② 戦争の悲惨さや平和の大切さ、命の尊さについて考える機会を提供する施設

#### 2 目指す資料館像・資料館の機能

- ① 戦時下の市民の暮らしや戦後、復興を果たした“まち”の姿を“つたえる”資料館  
(機能：展示機能)
- ② 市民の戦争体験や当時を物語る資料等を“うけつぐ”資料館  
(機能：収集・保存機能)
- ③ 北九州の戦争の記憶に触れて、ふるさとを愛する気持ちを“はぐくむ”資料館  
(機能：調査・研究機能、学習機能)
- ④ 人々の交流の輪や資料館の活動や魅力を“ひろげる”資料館  
(機能：交流機能、発信機能)

#### 3 建設地 (勝山公園内中央図書館北側駐車場)

##### 【配置イメージ】



## 第2章 展示計画 (P7～P12)

### 1 展示対象

#### ① 時代等

- ・戦前(大正末期)から戦後、北九州市が誕生する(昭和38年)まで

#### ② テーマ

- ・戦争により大きく変った市井の人々の暮らし・“まち”の様子
- ・北九州を襲った空襲の被害、原子爆弾と小倉
- ・戦後、復興を果たした“まち”の様子

### 2 展示のねらい

- ① 当時の人々の気持ち等に思いをはせ、平和の大切さ等を考えるきっかけとする
- ② “まち”への誇りや愛着の心を醸成する

### 3 展示の方針

- ① 来館者が体験・体感でき、心に残るような効果的な展示
  - ・映像・音響技術を駆使した展示等、五感を通じて、心に残るような展示を行う。
- ② 事実に即した正確でわかりやすい展示
  - ・「事実」を様々な世代に分かりやすく伝えることを重視する。
- ③ 子供たちの目線に立った展示
  - ・戦争に大きく影響された子供たちの暮らしや心情を実感できる展示を行う。

### 4 主な展示の構成・ストーリー等

□戦前の市民の暮らし・まちの様子等 「戦前の北九州」  
交通の要所や工業都市等として発展し、活気があった“まち”や暮らしの一方で、約300万人が出征した門司港、小倉陸軍造兵廠等があったことを紹介する。

□戦争により変りゆく市井の人々の暮らし 「戦争と市民の暮らし」  
戦争が激しさを増す中で、戦時下の銃後を守った市民の暮らしや子供たちの遊び、学校生活を紹介する。

□空襲の中、懸命に生きた市民 「空襲の記憶」  
発展した都市ゆえに、空襲目標となった北九州の被害や市民の過酷な体験、日本の戦闘機が米軍機に体当たりしたこと等を紹介する。

□八幡の空襲・原爆と小倉 「運命の昭和20年8月8日・9日」  
昭和20年8月8日の空襲により、大きな被害を受けた八幡の“まち”や翌日に原子爆弾を搭載した爆撃機が北九州の上空を通過したことを紹介する

□戦後の混乱を乗り越えた“まち”の再生 「戦後の復興から北九州市の誕生」  
戦後の混乱期の人々の暮らしや復興を通して、北九州の“まち”が平和の願いを込めて生まれ変わり、北九州市が誕生したことを紹介する。

□平和な世界に向けた取り組み 「エピローグ」  
平和な世界の実現に向けた北九州市の取り組みを紹介する。

### 第3章 整備計画（P13～P16）

#### 1 整備方針

- ① 資料館としての性格を考慮した施設
- ② 人と環境にやさしい施設
- ③ 周辺施設等との親和性がある施設

#### 2 施設規模・構造 約800㎡・RC造・地上1階（平屋建て）

#### 3 整備スケジュール

平成30年度 設計業務に着手

平成31年度 着工

※工事の進捗状況によって、開館時期を決定する。

#### 4 資料館の主要諸室

- |         |               |              |
|---------|---------------|--------------|
| ① 常設展示室 | ② 企画展示室       | ③ 収蔵庫・作業スペース |
| ④ 多目的室  | ⑤ 図書・情報検索コーナー | ⑥ 管理事務室      |

### 第4章 運営計画（P17～P18）

#### 1 運営手法

- ・資料館の核となる展示機能等について、専門性や継続性が求められることから直営を基本として検討を行う。
- ・窓口業務等は民間委託の実施を検討する。

#### 2 入館料

公共施設マネジメントの視点を踏まえ、原則、有料とし、具体的な料金体系については検討を行う。

#### 3 名称

展示内容などを踏まえ、対象とする分野や活動を表すものとして、今後、正式名称をはじめ、来館者に親しまれる愛称や略称なども検討する。

#### 4 集客

- ① 近隣施設等との連携やネットワークの構築による取り組み
- ② 観光客等の取り込みを図る取り組み